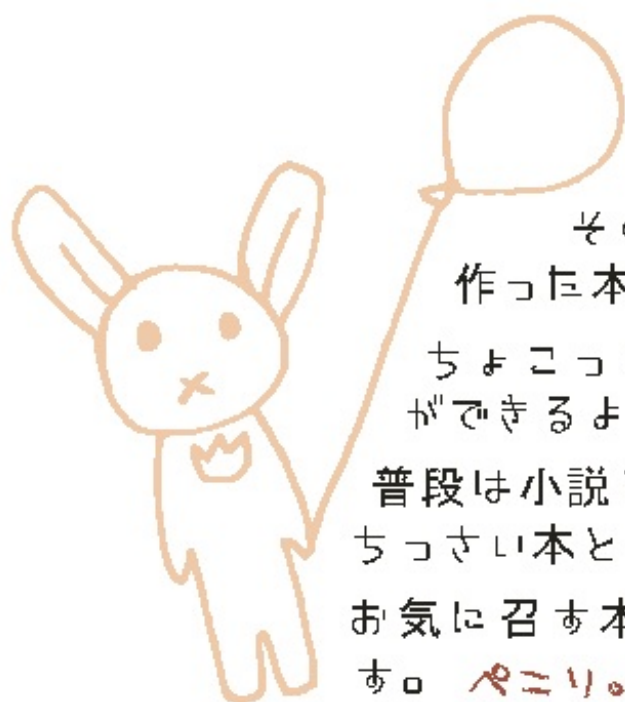


くまぼんカメログ





はじめまして、
くまっこといいます。

くまぼんかたろがは
その名の通り、くまが
作った本のかたろがです。

ちょこっとだけおためしおみ
ができるようになってます。

普段は小説とかレシピの本とか
ちっさい本とか作ってるのです。

お気に召す本があると嬉しいで
す。ペニリ。 20110414



ペーパーバックシリーズ

詩や掌編／短編小説を集めた、文庫サイズの作品集です。

表題作はどれも、メルヘンとファンタジーの合わさった“すこしふしぎ”な世界観。

凝縮されたクマセカイをお楽しみ頂けます。



+ 収録作品 +

end of world

牛乳瓶と女の子

ひかりのおと

ゆうひのゆくえ

ウサギとトリの小さなお話

零れる沈黙の欠片

まほろば

ひやくねんごのぼくへ

ひつじの国の王子さまと、

おさとうの国のお姫さま

高い空、降り止まぬ光の束、眩しすぎる蒼。
雲は遠すぎて、どうやっても手に届きそうもない。
校庭の砂は光の束と融合し、黄味を帯びて燥ぐ。

……………。

沈黙は美麗。
雑音は醜惡。

僕は美しき世界から、惡の扉を開く。

——キィィィィィン

脳は急加速に耐えきれず、目眩とともに不快な金属音を響かせた。
暫しの静寂。そして——

+零れる沈黙の欠片+

果てしない物語に暮らす天文学者から 手紙が届いた。

『世界の果てを探しに行くことにする。』

ずっと昔 偉い学者の人が この世界は丸いと言って
世界は地球になった。

地球に果てはないと 偉い学者の人は言う。

そうして 果てを探し求めていた人々は 唐突に 希望を失った。

最果てを目指した船はゆくあてを失い 海の藻屑となる。

藻屑となってもなお 果てに憧れた人々は いっしが
果てという幻想に恋い焦がれ 永遠を彷徨っていた。

藻屑は分解に分解を重ね それでも果てに到達することなく

再生を繰り返しては 悲劇に立ち会い
つめたい涙を流し続けるのだろう。

．．．
．．．．．

『果てしない物語の終焉は、誰が紡ぐのだろう。』

手紙を鞆の底の底にしまいこみ 僕は鍵を置く。

世界の果てに行く準備はととのった と
鞆の中から 天文学者はささやいた。

「お姫さまのくれたお菓子、お星さまのカタチをしてました。
あれはなんという名前のお菓子ですか」

「あのお菓子は、おさとうの国の真ん中に建つ、
金平塔という高くて大きな塔で作られているんですよ」

とおい空の話。

寒い寒い北の地に、ひつじの国と、おさとうの国がありました。
ひつじの国とおさとうの国は山を隔ててお隣にあり、とても
仲のいい国です。

ひつじの国には王子さまが、おさとうの国にはお姫さまがお
られまして、お二人はお小さい頃からのお許嫁でございました。

おさとうの国は代々女のお子さましかお産まれにならないため、隣国ひつじの国の第二王子さまと婚儀を交わし、王子さまをおさとうの国に迎え入れることで血筋を残すのが古くからの習いだったのです。

その習わしに則って、おさとうの国をお継ぎになるお姫さまとひつじの国の第二王子さまは、お小さい頃から文を通わせて親睦を深めておられました。

さて、婚儀まであと数ヶ月という時分になりご婚礼のご準備をなさっていたお姫さまの元に、ひつじの国からの使者が参りました。使者は王子さまからの緊急の文を携えてお持ちして、その文をお読みになったお姫さまのお顔は、みるみるうちに青くなってやみました。

+ひつじの国の王子さまと、おさとうの国のお姫さま+



+収録作品+

やみいろラジヲ

記憶のみち

砂のうた

(挿絵: 椎名麻子さまv)

カレーのお姫さま

まぶたを閉じた奥の奥
視神経を遮断した
真の暗闇から お送りする
エンタテインメント
漆黒のやみいろを キミにお届け

耳から伸びるアンテナ 最大限にひっぱって
北北西東東南
恐怖の耳鳴り
死者の誘い
ノイズが途切れたら
楽しいショーの はじまりはじまり

+やみいろラジオ+

僕は大きな岩の見える砂浜に立っていた。

雲の白と空の青の境界線が眩しく海を照らしている。

——それは、記憶の底に閉じ込めていた懐かしいと形容すべき風景だった。

……。

僕は子供の頃、この町で暮らしていた。

住んでいた家から砂浜までは、子供の足で確か二十分くらい。自転車で来れば大したことはない距離ではあったけれど、僕には自転車に乗れない連れがいたから、いつも歩いてきていたのを覚えている。

自転車にまだ乗れない女の子——千夏は、隣の家の子で、

物心ついた頃にはいつも一緒に遊んでいて……兄弟のいない僕にとって千夏は、大切な妹のような存在だった。

けれど、千夏と最後に過ごしたあの夏を、僕はずっと忘れてしまっていた。

*

目眩と吐き気が代わる代わる僕を襲ったけれど、それでも、思わずにはいられない。——僕は、どうしてこんなに大切なことを忘れてしまっていたのだろう。どんなことがあっても、千夏との思い出は無くしてはいけないものだったはずなのに。

+記憶のみち+

——けれど、声は届く前に、すべてが枯れ葉となってしまった。

『こんなに罪を重ねて、そうして拭いきれない罪悪を感じているのだろう？』

僕は白うさぎの“声”に動揺して女の子を見つめ、女の子は自分の肩から斜めがけにした白うさぎの耳を撫でながら、積みあがった枯れ葉に手を入れた。

——でも、あったかいのね。

彼女は微笑んで、緑色をしばたかかせて、歌を歌った。



＋砂のうた＋

とおい空の話。

ある小さな国の王宮に、お姫さまが暮らしておりました。

お姫さまは、それはたいそう美しい容姿でいて、銀糸のように煌めく髪は誰の目をも虜にし、粉雪を思わせる白い肌に色づく薄紅の頬は、誰もが触れてみたいと思うほど愛らしいものでした。

お姫さまには、とびきり大好きな食べ物がありました。

それは「カリィ」という名の煮込み料理で、お姫さまの暮らす国では家庭料理の一つとして人々に親しまれているものです。野菜や肉などを煮込み、それを窯焼きパンに付けて食べるという他愛の無い料理ではありましたが、様々な木の実や種子を組み合わせて味付けをするため、どの家でも決して同じ味ができず、それも人々に好まれている理由の一つでした。

+カレーのお姫さま+



+収録作品+
花のうた
ほしのこ絵本
箱庭
魔女と怪獣

或る街に言葉を持たない花売りの娘が居た。

大きな街の外側に廻らされた細い路地に行き、娘は無声で花を売る。其の声を聞いた者は一人も居ない。

或る日娘から花を買った男が、代金の代わりに娘の足元に古びたスピーカーを置いて行った。

娘がスピーカーを拾い上げ其の爪みを横にずらすと、耳の聞こえない娘にしか聞こえない音が聞こえてきた。

振動板に触れた娘の爪の先から音は体内に流れ込み、其れは娘の隅々まで行き渡る。然して娘の口から零れ出すのだ。

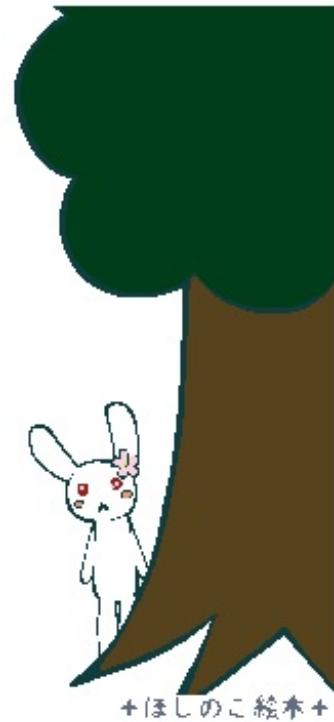
——言葉を持たない花売りの娘が紡ぐ花のうた。

うたは口から離れるとそれは美しい花となって娘の持つ花籠へと舞い落ちるので在った。

+花のうた+

きらきら星のかがやく夜ふけ
星の妖精「ホシノコ」は
今日も夜空を フワフワリ

「星にねがいを
かけているコは いないかな？」



+ほしのご絵本+

遠い空の話。

深い森の奥に、ひとりの魔女が暮らしていました。

その魔女は人々に「南の魔女」と呼ばれ恐れられていて、魔女と呼ばれるに相應しい大きな魔法の力と、永遠の命を持っていました。

ある日魔女は、あまりにも暇を持て余していたので、家族を作ろうと思い立ちました。本当は「友達」がよかったのですが、魔女はずっとずっと昔に友達に裏切られたことがあったので、友達を作るのが怖かったのです。

魔女は、自分の家族ならきっと世界一強いに違いないと思い、そうして考えた末に、大きな大きな「怪獣」を作りました。

+魔女と怪獣+

おねだん

モフモフのひつじの毛より
おさとうの国のお姫さまへ..... 400円

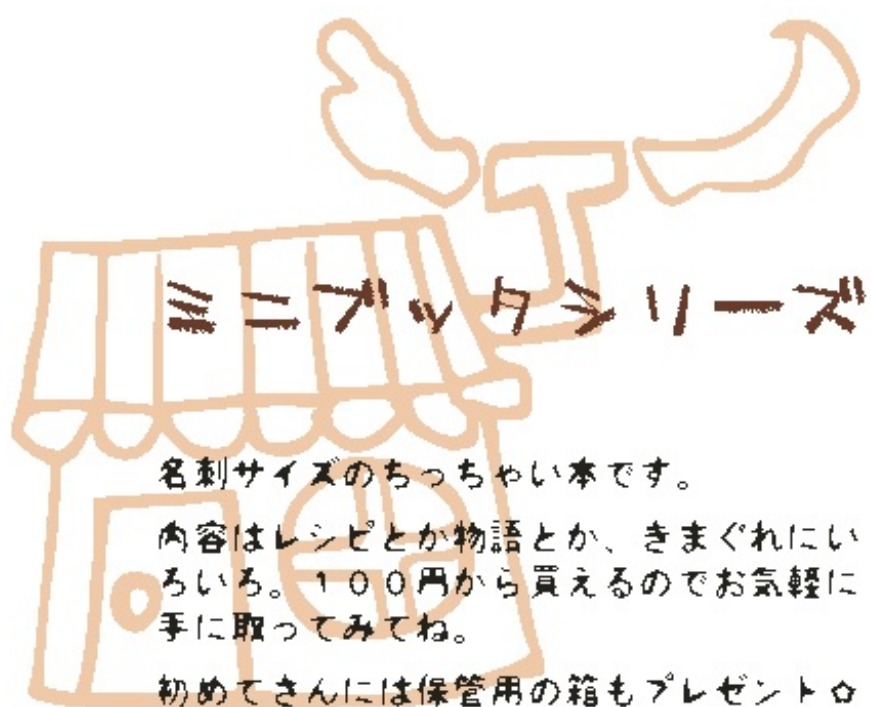
フルカラー・68ページ

クマとカレーとお姫さま..... 400円

フルカラー・68ページ

怪獣散歩..... 300円

フルカラー・48ページ



名刺サイズのちっちゃい本です。

内容はレシピとか物語とか、きまぐれにいろいろいる。100円から買えるのでお気軽に手に取ってみてね。

初めてさんには保管用の箱もプレゼント

No.01 はちみつロールケーキ

+No.01-Recipe+



はちみつたっぷりの、しっとりロールケーキ



ホットケーキミックスで簡単ふわふわパン

+No.03-Story+



不思議な力を持つホシノコと犬と女の子のクリスマスストーリー

女の子の切り揃えられた前髪は霧を浴びて氷のように冷たく額に当たりましたが、それでも女の子はその場から立ち去ることなく、突き刺さるような冷氣の中、ただただじっと川面を見つめているのです。

それからしばらく、1時間も経った頃でしょうか。女の子の頭上で、一つの星が流れました。

霧に包まれた川を眺める女の子はそれに気付きようもありませんでしたが、流れ星は確かな軌跡を描いて夜空を渡り、そのままふうわりと地上に到達したかのように見えました。

——カンキロコロリン、カンキロコロン

その時不意に、霧の中から奇妙な音が聞こえてきました。

No.04 ハーブチーズのポテトサラダ

+No.04-Recipe+



ハーブチーズたっぷりの、ごちそうポテトサラダ



カフェインレスのフルーティな紅茶

No.06 さようなら。

+No.06-Story+



「さようなら」をテーマに描いた詩と物語集

+収録作品+

結晶／涙の街／プレゼント／白の世界
白クマと黒クマ／井戸の底で／おしまい

わたしの告げる“さようなら”は、
誰にでも届いて誰にも届かなくて、
それでもわたしは言い続けるよ。
誰かのさようならの代わりにつぶやくのよ。
さようなら さようなら。

+おしまい+

+No.07-Photo&Text+



トイカメラとケイタイで撮った春の色たち

1.



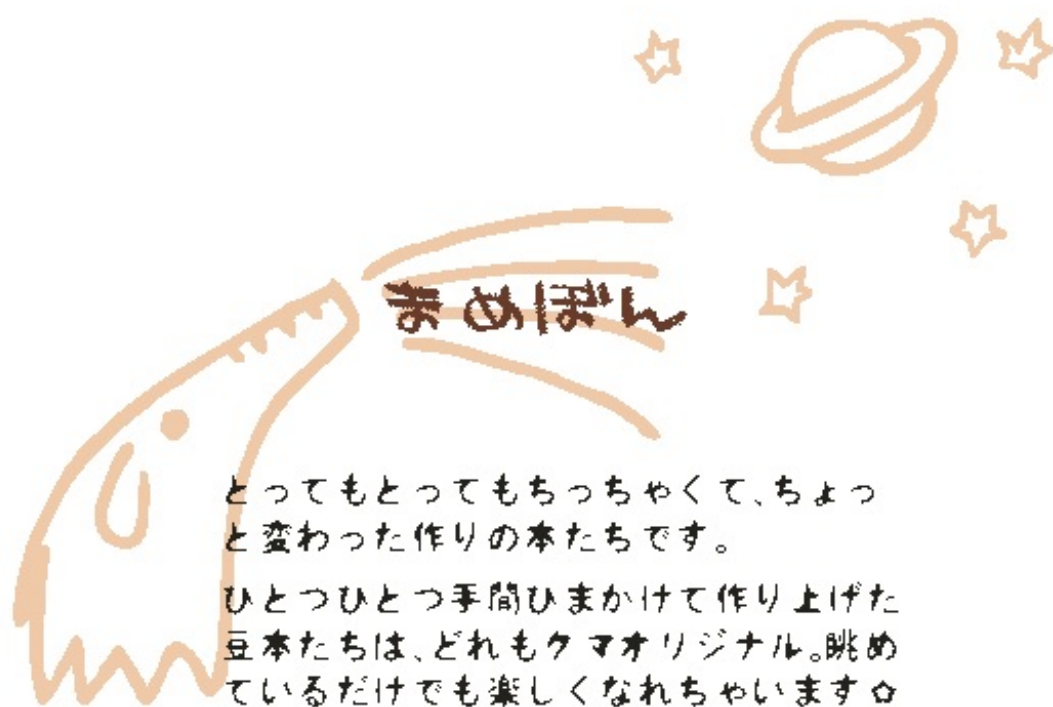
花が一つも咲いてなくたって
いいよ。

ぼくの手のひら
君がのせてくれた丸パンに
ほんのひとかけら
春味がひそんでいけば
ぼくは生きていける。

＋みどりのパン工房＋

おねだん (めいしサイズ/オールカラー)

01. はちみつロールケーキ(16p)..... 150円
02. おとらふパン(12p)..... 100円
03. ホシノコ(28p)..... 200円
04. ハーブチーズのポテトサラダ(16p)... 150円
05. トロピカルフルーツティー(16p)..... 150円
06. さようなら。(20p)..... 150円
07. ウサギアルバム：はる(24p)..... 200円



とってもとってもちっちゃくて、ちょっと変わった作りの本たちです。

ひとつひとつ手間ひまかけて作り上げた豆本たちは、どれもクマオリジナル。眺めているだけでも楽しくなれちゃいます♡



空を司る天使「ソラ」が地上にもたらした暗闇と、それを乗り越える人間たちの昔話。

企画本「ソラ」の発端となった過去話を収録しています。蛇腹折りで作った本文にカバーを巻いて、シールやリボンで可愛く仕上げました。

それは、遠い空の記憶——或る天使の物語

昔々、地上から遥かに離れた空——そこに浮かぶ雲の上に、幾人かの神様と、多くの天使が暮らしていました。

神様は万物を見守ることと世界の均衡を保ち、天使は神様の身の回りのごとからそのお役目に関するごことまで、あらゆることのお手伝いをしていました。

天使は神様のお手伝いをするために生まれた存在だったので、天使にとって神様から授けられたお役目を果たすことは本能に等しく、それは喜びと誇りに満ちあふれたことでした。

——その中に「ソラ」と名付けられた天使がいました。

+ ソラ +



撮りためている猫の写真をアルバム風に入れ、3名の素敵ゲスト様に猫のはなしを書いてもらいました。表紙はフェルト素材で猫型にしたり、持っていて楽しい本に仕上げました。

✦収録作品✦

ねこみち（くまっこ）

『ネコ科動物の月起源論』への招待（いぬのほねこさまv）

ねこまたの特訓（くどさまv）

せなかのなかのかのひとのなは（永瀬月臣さまv）

「この背中に何者が眠っているかご存知か。」

+せなかのなかのかのひとのなほ+

「猫の体には真ちゅう製の星が詰まっている。これは天文学ではよく知られた話である。」

+『ネコ科動物の月起源論』への招待+

「人間は歳さえとればねごまたになれると思ってるらしいが、そんなわけあるか。」

+ねごまたの特訓+

「わたしは犬派だ。子供の頃から犬と一緒に暮らしていたから当たり前と言えは当たり前だけれど、それだけではない」

+ねごみち+

おねだん

ソラ（豆本のほう）..... 400円

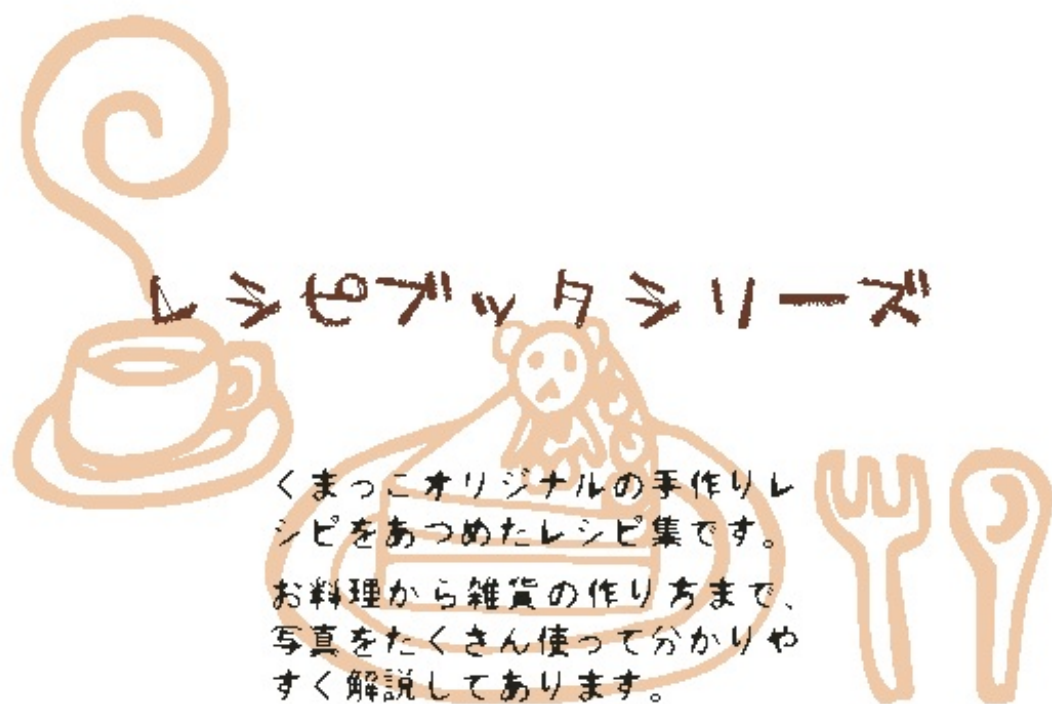
サイズ：64mm×50mm・50ページ

特徴：蛇腹・ポップアップ・くるみ表紙

ねこのほん..... 700円

サイズ：A9(37mm×52mm)・68ページ

特徴：写真・猫型・フェルト表紙





+収録レシピ+

まる・くまクッキー
まる&まるカノビーズコースター
ねんどで作る まる&まるカノ
クマのおさんぽバッグ

+収録作品+

レシピ・およびレシピ人について
のエッセイ (ささはらさまv)
まるえかきうた
(くまっこ&くどさまv)
おもちゃ (ささはらさまv)
まるたび (くろまるさまv)
クマイラスト★会
(ゲストさま多数v)

クマのつくりかた。

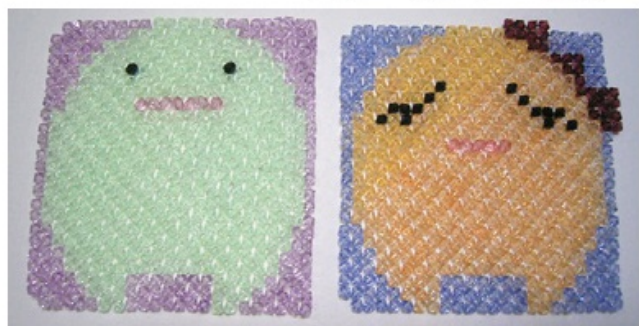


◆クッキー



▲ねんど「まるカノ」

▼ビーズコースター



+くまのつくりかた+



+収録レシピ+

あめたま
クマカレー
ポテトカレー
ツナカレー
トマトチキンカレー
牛乳かん

+収録作品+

カレーのおひめさま
カレー屋さんレポート

トマトチキンカレー



鶏もも肉	2枚
ヨーグルト	50cc
カレー粉	大さじ1
甘芋粉	大さじ2
おめたま材料	1食分
トマト缶	1缶
チキンコンソメキューブ	2コ
ローリエ	3枚
シナモンスティック	1本
塩	小さじ1/4
水	500~800cc
クミンシード	大さじ1
カレー専用スパイス	
カレー粉	大さじ2
コリアンダー	大さじ1
カルダモン	大さじ1
タイム/セージ	小さじ1/4
チリペッパー	少々



おたためた鍋にサラダ油大さじ1を入れ、弱火でクミンシードを炒めます。



クミンシードは焦げやすいので気を付けて。油が焦げたらクミンパウダーでもOK。その場合はおめたま材料はふりかけて食べてね。



1におめたま材料を入れ、おめたまを作ります。おめたまを作っている間に、鶏肉を焼きましょう。



おたためたフライパンに鶏肉のサラダ油を入れ、弱火で鶏肉の表面に焼き色がつくまで焼きます。



ぎゅうにゅう プリン



お鍋に水と砂糖と寒天パウダーを入れ、泡立て器で混ぜながら加熱かし、2分程沸騰させます。



お鍋を火からおろして、泡立て器で混ぜながら牛乳を少しずつ加えます。さらにバニラエッセンスを加えて、まんべんなく混ぜ合わせましょう。



+ くまのカレー屋さん +

おねだん

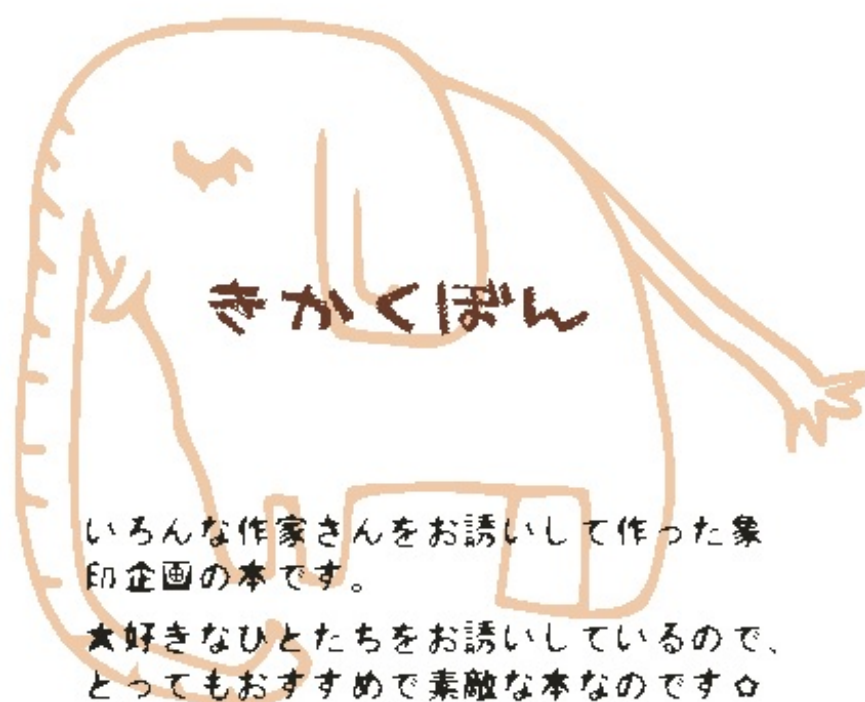
くまのつくりかた..... 800円

フルカラー・A5・48ページ

おまけ：型紙

クマのカレー屋さん..... 600円

フルカラー・A5・38ページ





+収録作品+

プロローグ (くまっこ)

いちばん暗い世界を君に

(永瀬月臣さまv)

L'empreint de l'ange

-天使の足跡-

(鳥久保咲人さまv)

エピローグ (くまっこ)

(表紙/挿絵: あめさまv)

遠い空の話。空を司る天使が、神に恋心を抱いた。

その許されざる想いは、誰もが愛した無垢を狂気に変えて、狂気はその手に持つ絵筆にまで侵食し、神の愛したかがやく空色は、群青を経て濃紺へ。それでもなお天使の体からあふれ出す狂気は、やがて、その色を漆黑へと導いた。

太陽も月も、かきけく明滅する星さえも天使の絵筆に塗り込められ、その色を失う。真の闇にさらされた世界は、静寂の時間を緩やかに刻む。

空から光が消えた朝、地上で暮らす者たちは凍える手で蠟燭を灯し、まるで初めから定められた儀式のように誰ともなく、空であったものに頭を垂れ、両手のひらを合わせて祈りを捧げた。

+プロローグ+

泥濘を泳ぐ指先が、その水面を探し当ててしまうような、目覚め。

薄く張った膜を押し破り、肺を満たす柔らかな泥をこぶ、と吐き出す。さらさらと乾いていく土の皮膚が、甘く澄んだ透明な空気の淡い存在を気づかせる。差す光。遠のく闇。花々の祝福と鳥たちの囀り。僕の目覚めは、そんな風にあらゆる眩しいものたちに取り囲まれてやってきた。世界を満たす明度の高い歓びの歌に思わず眩暈さえ覚えそうになる。

それなのに——、“なせ”。

何よりも先に浮かんだ言葉は、ただ一言。なせ。それが何に対するものなのか、誰に対するものなのか、そもそもどこから生まれたものなのかも分からない。なせ。その漠然とした、それでい

て完結しないことで存在を主張するその単語は、泉に落ちた染料の一滴のごとく僕を隅々まで満たしていく。なぜ。おかげで僕は周囲の祝福に戸惑いが混じったことにも気づかない。

「多くの祝福のもとに生まれた者よ。君は私が誰か分かるかい？」

声かして、素直に顔を上げた。整った顔立ちと、すらりと伸びた手足を持つ体躯。僕はまだ引き摺る喉で直感を言葉へと変換する。

「……か、神様、です」

「よろしい。それではもうひとつ訊ねよう。君は自身が何者であるか分かるかな？」

「ぼく、は……」

薄黒い夜へと続くその途中で、僕は巨大な塔の下、独り座り込んでいた。

目を閉じると、風が鼻をくすぐり土の匂いと湿っぽい空気を感じた。空の色が急速に黒くなっていく。草原や遠くで揺れるスッエの森が空よりも深い漆黒の闇を含んで行んでいる。もう地平線ではぼつぼつと明かりが灯り始めた。

塔の壁を背もたれに視界いっぱい広がる世界を瞳に映した。空は薄黒い。しかし夜を夜とする闇は空から降ってくるものではない。夜は空よりもむしろ森の葉や建物や人間のほうが黒く見える。しかし何より暗闇を纏うのはこの塔だろう。

こうして暮れ行く夕空を眺めていると、自分の内側から哀しさが湧き上がる。言いようのない、だが言葉にして吐き出した

い喪失感と焦燥感が僕の喉を痒くした。視線を落とし、手元にある彫りかけの木材を鬱蒼とした地面に置いて膝を抱える。抱える腕には無数の傷が出来ている。切り傷に痣、みみず腫れもある。僕は口を歪ませて乾いた笑みをしてから、風の生暖かさで泣きそうになるのを堪えた。刻々と閉じて行く空を眺める。おそらく、



僕の体は自由であるはずだった。ただ、心が不自由で仕方なかった。そのとき声が、聴こえたような気がした。

おねだん

ソラ.....600円
表紙フルカラー・A6・186ページ

くまっこのブログ、ここまで見て下さりありがとうございます！ もしも気になる物があったらイベントで立ち読みしてみるか、お問い合わせしてみてください。こっそり通販も承っております。

↓つろはしほろほろ↓

欲しい本のタイトルを書いて

otome_ya@yahoo.co.jp まで

メールする。こまだけ！

どうぞ宜しくお願い致します☆



"アロアト ヰ"おは >



くまぼんカタログ

<http://p.booklog.jp/book/33284>

著者 : cumazou3

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/cumazou3/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/33284>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/33284>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.